

藤原洋数理科学賞受賞者のことば

2016年10月1日に第5回藤原洋数理科学賞授賞式が行われました。

参考 URL: <http://www.iri.co.jp/HFprize/>

ここでは受賞者で日本数学会会員の岡本久氏に業績紹介を含めた文章を書いて頂きました。

大賞 岡本 久
(京都大学数理解析研究所教授)

受賞業績

数理流体力学のフロンティアの開拓

このたび藤原洋数理科学賞を受賞し、感謝の気持ちとともに、今後も精進を続けてゆかねばならない、と改めて自分に言い聞かせているところです。

数理流体力学はオイラーから始まって着実に進歩してきましたが、一つの問題の解決が新たな(それまで認識されていなかった)問題を暴き出すことにつながるものが多く、未解決問題の数は決して減ることがないように思えます。非線形偏微分方程式の問題に限ってみても、ずいぶん難しい問題が残されていますが、次の世代の数学者が解決してゆくものと信じます。いわゆるミレニアム問題のひとつも数理流体力学の問題ですが、それだけが重要なのではなく、それが一番重要な問題なのでもありません。やるべき仕事は山ほどあります。数理流体力学に興味を持っている研究者は我が国に数多いですから、今後の研究の進展に期待したいと思います。